

利賀っ子だより



R4. 10. 14

○ プロの姿を見る

休み時間に子供たちがピアノの周りに集まっているのが見えました。子供たちは、調律師さんがピアノの調律をしてくださっている様子を見つめていたのです。

例年、ピアノの調律は、子供たちのいない時間に行っているのですが、その様子を見るのは初めてだったようです。「(ピアノの) こんなところも開くんだ!」「ピアノって、こんな仕組みで音がでているんだ。」と作業の邪魔にならないよう小声でささやきながら見ている目は真剣でした。

子供たちをひきつけたのは、ピアノの内部だけではなく、一つずつの音やハンマーの動きを確かめておられる調律師さんのプロの姿、「見ていてもいいですよ。」と子供たちに応じてくださる姿、たくさん並んでいる見たこともない工具等を感じるものがあったのだと思います。



【へえ、なるほど。】



【中学生からもアドバイス】

今日は、金剛祭(学習発表会)の演目のうち、民謡を小中学生で合同で練習する初めての日でした。

4人もの講師の先生が来てくださり、細かい所作や並び方等についてご指導いただきましたので、緊張感のある練習時間となりました。

指先まで意識を向ける、膝を曲げる角度や手を開く角度、傘の高さをそろえる等、この道のプロからのご指導で、子供たちの

意識が高まり、待ち時間にも練習していました。

教職員以外のいろいろな大人の方と関わることは、子供たちにとって貴重な学びの場であることを子供たちの姿からあらためて感じました。

(高田 公美)